

現代首里方言訳『沖縄対話』(6)

—「第六章 旅行ノ部」—

仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・
渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子・林京子

Comparison of Meiji Era and Present-Day Shuri Dialect: A Research Note on Okinawa Taiwa(vol.6), Chapter 6 “Travel”

Jo NAKAHARA, Masako NAKAZATO
Tsuneshige ARAKAKI, Tomomasa KUNIYOSHI
Katsuyo TONAKI, Mieko YAMADA
Yoshiko OMICHI, Kyoko HAYASHI

The purpose of this paper is to make clear the differences between the Ryukyuan language of the diachronic document Okinawa Taiwa, chapter 6, “Travel” and modern Shuri dialect.

In this study, we translated the “Japanese” written in Okinawa Taiwa to modern Shuri dialect on the basis of the transcriptions of Shuri dialect speakers. Notes were put in remarks columns where translations differed depending on the speakers.

We also made diachronic study to compare this modern Shuri dialect material and the Shuri dialect in Okinawa Taiwa written in the Meiji Era.

As a result, we confirmed that there were some differences between them in vocabulary and grammar.

Especially remarkable is the adverb “DUTTU.” It was found that it is rarely used in modern Shuri dialect.

We clarified that “DUTTU” in the Meiji Era was often used to modify other adverbs and adjectives, and that in modern Shuri dialect “YUFUDU,” “IPPE,” “YUKAI” and other words are used in place of “DUUTU.”

はじめに

本稿は仲原・比嘉・仲里・新垣・国吉（2012）、仲原・比嘉・仲里・新垣・国吉（2013）、仲原・仲里・新垣・国吉（2014）、仲原・仲里・新垣・国吉・渡名喜・山田・大道（2015）、仲原・仲里・新垣・国吉・渡名喜・山田・大道（2016）

（以下、仲原他2012、仲原他2013、仲原他2014、仲原他2015、仲原他2016と称する）の続編であり、明治13（1880）年発行の『沖繩対話』に記載された琉球語と現代首里方言の比較のための基礎的研究である^{註1}。本稿では「第六章 旅行ノ部^{註2}」を対象としたものであり、我々が行っている研究会^{註3}にて得られた成果である。

本研究の目的は、現代首里方言がどのような経緯を経て、現在のような言語体系を構築したのか、という通時的な研究を明らかにするための近代の言語資料として重要な資料である『沖繩対話』と現代首里方言との差異を明らかにすることである。それによって、変容しつつける「言語」の宿命のなかで、首里方言のどの部分が変わらずに遣い続けられ、生き残っているのか、また、どの部分に変化がみられるのかについて丁寧に調べることで、相違点を明らかにすることができる。この研究を積み重ねていけば、首里方言が今後どのように変容していくのかという推測を行うこともできるだろう。

これまで、仲原他（2012～2016）でも述べたように、『沖繩対話』の本文に付された「琉球語」は、首里方言のなかでも「貴族語」と称されている現在の首里方言で「ウドゥントゥンチ^{註4}」と呼ぶ家柄の人々のことばである^{註5}。しかし、現在はこのことばの元になった琉球国の身分制度そのものが消滅していること、その影響が残っていた戦前までに言語形成期を迎えた貴族語を話す人々がかかなり少なくなったことなどから、十分な調査ができない状況にある。よって本稿では、首里方言のうち、旧士族階級（サムレーなどと称する階級）のことばを中心とした翻訳をおこなった。

現代首里方言訳を行う手順は以下の通りである。まず、『沖繩対話』の「日本語」の「標準語」の部分を読み上げ、続いて明治期の首里方言を読み上げる。こうすることで、『沖繩対話』の「本文」の「日本語」のうち、意味の取りにくいところも「明治期の琉球語」により、日本語文の内容を間違うことなく把握する

ことができた。その後、明治期の「琉球語」と「現代首里方言」との違いについて議論するが、手始めに仲原が研究会の参加メンバーへのうち、話者^{註6}になる方々から聞き取りを行い、そこで得られた対訳をもとに、メンバーの生まれた年代や首里のなかの生育地域により、発音や表現の違いがみられないかどうかを皆で議論する。その議論をまとめて現代の首里方言として使用できるものを以下の表で「現代首里方言」として示した。なお、話者により対訳に差がみられる場合は「備考」欄に注記した。左側には、『沖縄対話』の「本文」を現代日本語の表記法に改めたものを比較資料として提示した（詳しくは「凡例」を参照）。

なお、本稿の「底本」は『琉球語便覧』収載の『沖縄対話』である。その主たる理由は『琉球語便覧』に『沖縄対話』編纂の目的からいふと日本語が主で琉球語は従であつたから、當時は琉球語の假名遣ひには餘り注意が拂はれなかつたが、『琉球語便覧』出版の目的からいふと、むしろ琉球語が主で日本語が従になつてゐるから、こゝでは琉球語の假名遣^{ママ}が一入重要になつて來る譯である。ところが琉球語の音韻には假名では到底書きあらはせないのがあるから、假名の上に●點などを附して之を書きあらはす約束を設けなければならないやうになつた。それでもなほ盡せないところがあるので、琉球出身の文學士にして琉球研究者なる伊波普猷氏に乞うて別に之を羅馬字^{ローマ字}で寫して貰つたから比較的正確に寫されてゐると思ふ」（糖業研究会出版部1916：1-2）と述べられ、本文の横にローマ字表記が施されているためである。このローマ字によって読むことができた箇所が何カ所もあつた。

凡例

1. 「底本」の『琉球語便覧』の本文（和文）、本文（片仮名）も表に取り入れ、明治期の首里方言と現在（平成）の首里方言を対照できるようにした。
2. 『琉球語便覧』本文の和文表記は漢字カタカナ交じり文で書かれており、表記も「歴史的仮名遣い」「旧字体」であるが、本稿では読みやすさを考慮し「現代仮名遣い」「新字体」に改め、「漢字カタカナ交じり文」を「漢字ひらがな交じり文」に改めた。このほか、本文の表記に際し、漢字に振られたカタカナ表記のルビも同様に「ひらがな」にし、漢字の後に（ ）で示した。また、踊り字は本字に置き換えた。
3. 『琉球語便覧』の「標準語」の「本文」に併記された「琉球語」は「カタカナ表記」であり、左記に引用したように補助記号として「・」（圏点）が付されている。しかし、圏点は非常に小さく見づらいため、読み手が読み誤りやすい。本稿ではこの圏点を採用せず、簡易音韻表記として音韻的なカタカナ表記で記述した（「[・]テ」＝「ティ」、「[・]デ」＝「ディ」、「[・]ト」＝「トゥ」、「[・]ド」＝「ドウ」、「[・]ヒ」＝「フィ」、「[・]ヘ」＝「フェ」、「[・]ホ」＝「フォ」、「[・]シ」＝「スイ」、「[・]ジ」＝「ズイ」、「[・]ツ」＝「ツイ」、「[・]イ」＝「イイ」、「[・]ウ」＝「ウウ」と表記〔音価は『琉球語便覧』のローマ字を参考にした〕。なお、長母音は「ー」で表記し、『沖縄対話』のカタカナ表記「子」は「ネ」に改めた。
4. 現代首里方言の記述は、広く一般に利用してもらえるように音声的仮名表記にした。片仮名表記は西岡・仲原（2006[2000]：192-193）の表記を採用したが、句読点に関しては現代日本語に準じて補って示した。ちなみに、首里方言には特殊な発音がいくつかみられるため、以下のように特殊な片仮名で表記する。
「ツワ」「ツヤ」「ツン」「ツウイ」「ツウエ」「ウウ」「イイ」「ン」
/ʔwa/ /ʔja/ /ʔN/ /ʔwi/ /ʔwe/ /u/ /i/ /N/
5. 会話文は、一つ一つの会話を一つの枠内に入れた。会話文の区別については『沖縄対話』を参照した。『沖縄対話』では話者を○、○○で区別しているが、いくつか適合しない部分もあった。本稿では、同一人物が発したとみられるセリフは同じ枠に入れた。なお、会話文には回ごとに通し番号（No）を付した。

■第六章 旅行ノ部 第一回

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖縄語) |
|----|------|---|--|
| 1 | p.72 | 東京への御出立は何日でございますか。 | トウキョーシカヌ ウンジタチャー イツイガ ヤヤビーラ。 |
| 2 | p.72 | 未だ決定は致されませぬが何れ五六日の内でございます。 | マーダ チワマラノー アヤブーシガ チャーシン グルクニチヌウチ ヤラ ハヅィ ヤビーン。 |
| 3 | p.72 | 船は何へ御乗りになりますか。 | フネーヌー ウヌイミシエービーガ。 |
| 4 | p.72 | 赤龍丸の積りでござります。 | シキリユーマルヌ カンゲー ヤヤビーン。 |
| 5 | p.72 | 何つ頃入港致します。 | イツィグル イヤビーガ。 |
| 6 | p.72 | 二三日の内には参りましょう。 | ニサンニチヌ ウチネー イーラ ハヅィ デービル。 |
| 7 | p.72 | 誰にか御尋ねなされましたか。 | ターンカイン ウタンニミシエーガ シヤビタラ。 |
| 8 | p.72 | 豊瑞丸の船長に聞きました。 | ホーズイマルヌ シンチョーカラ チチャビタン。 |
| 9 | p.73 | それでは、もう、鹿児島迄は参りて居りましょう。 | アンシエー ナー カグシママデー チョーラ ハヅィ デービル。 |
| 10 | p.73 | 大島迄は豊瑞丸と一處に来(き)ました様子でございます。 | ウーシママデー ホーズイマルトウ マジュン チョール ヨースィ ヤヤビーン。 |
| 11 | p.73 | 左様でございますか。それでは今に入るかも知りませぬが御仕舞方(しまいかた)は如何でございます。 | アンヤヤビーミ。 アンシエー ナマガイラ ワカヤビランシガ ウシメーガター チャーヤヤビーガ。 |
| 12 | p.73 | 難有うござります。もう、大概仕舞いました。 | ミフエーデービル。 ナーイークル シメートーヤビーン。 |
| 13 | p.73 | 此度は大阪へも御立寄りでございますか。 | クンドー ウーザカンカイン イメンシエービーミ。 |
| 14 | p.73 | 序(ついで)に見物致す積りでおります。 | ツイディニ チンブツイシュル カンゲー ヤヤビーン。 |
| 15 | p.73 | 何日位の御滞留でございます。 | イツカグレーヌ グテールー ヤヤビーガ。 |
| 16 | p.73 | 十日ばかり居りましたら大概見物も出来ましようかと思ひます。 | トゥカヌ シヤク ウウイドウンセー イイークル チンブツィン シーヤサンカヤーンデー ウムトーヤビーン。 |

■第六章 旅行ノ部 第一回

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|--|
| 1 | トウキョーンカイエー イチ * <u>メンシエービーガ</u> 。 | *「いらっしやるのですか」に対応する語形。また、「タチミシエーガ」(発ちなさるのですか)でもよい。 |
| 2 | * <u>マーダ</u> キマテー ウウイイビランシガ、チャーシシ ** <u>グルクニチヌウチ ヤル ハジ ヤイイビーン</u> 。 | *「ナーダ」でもよい。 *林氏は「グルクニチウチドゥ ヤイイビーラ ハジ」がよいという。 |
| 3 | ヌーヌ フニンカイ * <u>ヌ(イイ)ミシエービーガ</u> 。 | *「ヌイミシエービーガ」は通常「ヌシエービーガ」のように「イイ」が省略された語形を用いるが、丁寧な言ときは入れてもよい。 |
| 4 | セキリユーマルンカイ ヌイイル カンゲー ヤイイビーン。 | |
| 5 | イチグル イヤビーガ。 | |
| 6 | ニサンニチウチネー イール ハジ ヤイイビーン。 | |
| 7 | ターガナンカイ * <u>チチミシエービティ</u> ? | *国吉氏は「ウチチニ ナミシエービティ」がよいという。 |
| 8 | ホーズイマルヌ センチョーカラ チチャピタン。 | |
| 9 | アンシエー ナー カゴシママデー チョール ハジ ヤイイビーン。 | |
| 10 | オーシママデー ホーズイマルトウ マジュン チョール * <u>ヨーシ</u> ヤイイビーン。 | *渡名喜氏は「ヨース」がよいという。 |
| 11 | アン ヤイイビーミ? アンシエー * <u>ナマガ</u> ** <u>イーラ</u> ワカイイビランシガ、** <u>タビジコーイ</u> <u>エー</u> チャー ヤイイビーガ? | *「ナマニ」でもよい。 **渡名喜氏は「イーガ スラ」がよいという。 ***林氏は「ウシタコー」がよいという。 |
| 12 | ニフェー デービル。 ナー イーグル * <u>ナト</u> <u>ーイイビーン</u> 。 | *国吉氏は「シマチョーイイビーン」がよいという。 |
| 13 | クンドー オーサカンカイン <u>メンシエービー</u> <u>ミ</u> 。 | |
| 14 | チャーディニ * <u>ミームスル</u> カンゲー ヤイイビーン。 | *渡名喜氏は「ケンブツスル」、林氏は「マーティ ンジュル」がよいという。 |
| 15 | チャヌアタイ * <u>ユードウ シミシエービーガ</u> 。 | *渡名喜氏は「トゥマイイ ミシエービガ」がよいという。 |
| 16 | * <u>トゥカヌ</u> サク ウウイドウンシエー イーグル ミームン ** <u>シーヤサンガヤンディ</u> ウムトーイイビーン。 | *国吉氏は「トゥカフドウ」がよいという。 **国吉氏は「シマサンガヤンディ」がよいという。また、渡名喜氏は「ナイイビランガヤンディ」がよいという。 |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|---------|---|---|
| 17 | p.73-74 | 何か御注文はござりませぬか。 | ヌーン ウチュームノーネー ミシェーピラニ。 |
| 18 | p.74 | 誠に申上兼ますが、些(ち)と御願ひ致しとうござります。 | ジントー ウンヌキーグリシャーアヤビースイガ ウフェー ウダヌミ シーテーンディ ウムトーヤビーン。 |
| 19 | p.74 | 何なりとも御えんりよなく仰せ下されませ。 | ヌーヤラワン グイインルミショーラングトウミシェーピリ。 |
| 20 | p.74 | 難有うござります。 | ミフェーデービル。 |
| 21 | p.74 | 左様なら良き石板とラープルを御送り下されませ。 | アンドウンヤラー イー シキバントウ ラープルトウ ムタチウタビミシェーピリ。 |
| 22 | p.74 | 御やすいこととござります。それ丈けとござりますか。 | ウレー ドゥーヤスイイ クトウドウ ヤヤビール。ウッサガ ヤヤビーラ。 |
| 23 | p.74 | 種々(いろいろ)ごなんだいありますが、御召縮緬(おめしちりめん)の単衣(ひとえじ)を一反御求め下されませ。 | イルイル グミンドーヤ ヤヤビースイガ ウミシチリミンヌチームン イッタノー ウムトウミショーチ ウタビミシェーピリ。 |
| 24 | p.74 | 私も序でがありますから一処に求めて御送り申しましょ。 | ワンニン ツイディヌアヤビークトウ マジューシ ムトウミティ アギラシャピラ。 |

■第六章 旅行ノ部 第二回

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|------|--|---|
| 1 | p.75 | 貴方は伊勢参宮(いせさんぐ)をなされたと承りましたが、何時頃(いつごろ)御越しになりましたか。 | ウンジョー イセサンチー ミショーチャンディ イチ チチャビタスイガ イツイグル イメンシェービタガ。 |
| 2 | p.75 | 八月の中頃から立ました当月の初めに帰りました。 | ハチグツツイヌ ナカグルニ タッチ クンヅイチヌ ハジミニ ケーヤビタン。 |
| 3 | p.75 | 神戸(こうべ)までは汽船でござりましたが。 | コーバマデー フニカラガ ヤヤビータラ。 |
| 4 | p.75 | 左様でござりました。 | アンヤヤビータン。 |
| 5 | p.75 | 夫れから本街道を御越しになりましたか。 | ウリカラー フンドーカラガ イメンシェービタラ。 |
| 6 | p.75 | 往(ゆ)きは本道(ほんみち)を参りまして帰りは伊賀越(いがごえ)を致しました。 | イチーネー フンドーカラ ソジ ケーイーネー イガゴエ トゥーヤビタン。 |
| 7 | p.75 | それでは汽車に御乗りでござりましたか。 | アンシェー キシヤ ウヌミシェーガ シャビタラ。 |
| 8 | p.75 | はい、参り掛けには神戸の停車場(すてーしょん)より西京(さいきょう)迄(いた)乗りて往きました。 | ウー、イチーネー コーベヌ ステーションカラ サイチョーマディヌティ イチャビタン。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|---------------------------------|
| 17 | ヌーン チュームノー ネーミシエービラニ。 | |
| 18 | ジントー ウンヌキーグリサーアイビーシガ、 ウフェー ウタヌミシエーヤーンディ ウムトー イビーン。 | |
| 19 | ヌー ヤラワン グイインロー シミソーラング トウ * <u>シミシエービリ</u> 。 | *林氏は「ウンヌキミシエービリ」がよいという。 |
| 20 | ニフェーデービル。 | |
| 21 | アンドウンヤレー イイー シキバントウ ラーブ ルトウ * <u>ムタチウタビミシエービリ</u> 。 | *渡名喜氏は「ウクティクイミシエービリ」がよいとい う。 |
| 22 | ウレー * <u>ドゥーヤシー</u> クトウドウ ヤイビー ール。ウッサガ ヤイビーラ。 | *「ドゥーヤッサル」ともいう。 |
| 23 | イルイル グミンドーヤ ヤイビーシガ、オメ シチリメンヌ チームン イッターノー ウムトウミ ソーチ クイミシエービリ。 | |
| 24 | ワンニン チーディヌ アイビークトウ、マジュ ン ムトウミティ ウクティ * <u>ウサギヤビラ</u> 。 | *大道氏は「ウサギヤビーサ」がよいという。 |

■第六章 旅行ノ部 第二回

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|---|--|
| 1 | ウンジョー イセサンゲー シミソーチャンディ * <u>チチャビタシガ</u> 、イチグル ッメンシエービタ ガ。 | *国吉氏は「チチューイイビーシガ」がよいという。 |
| 2 | ハチグウチヌ ナカグルニ タッチ、* <u>クンチチヌ</u> ハジミニ ** <u>ケーイビタン</u> 。 | *林氏は「クヌチチ」がよいという。 **大道氏は「ケーヤビタン」がよいという。 |
| 3 | コーベマデー * <u>フニカラガ</u> ヤイビーターラ。 | *「フニカラドゥ ヤイビーティー」でもよい。 |
| 4 | アン ヤイビータン。 | |
| 5 | ウリカラー ホンドーカラ メンシエービティー。 | |
| 6 | イチーネー ホンドーカラ ッンジ ケーイイ (一)ネー * <u>イガゴエ</u> トゥーイイビタン。 | *渡名喜氏は「イガトゥーティチャービタン」がよいと いう。 |
| 7 | アンシエー * <u>キサシカイ</u> ヌミシエービティー。 | *大道氏は「キシヤ」がよいという。 |
| 8 | ウー、イチーネー コーベヌ エキカラ サイ キョーマディ ヌティ イチャビタン。 | |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|---------|---|---|
| 9 | p.76 | 迅(はや)く御着(おつき)になりましたでござりましょう。 | フェーク ウツイチミショーチャラ ハヅィ デービル。 |
| 10 | p.76 | 午前八時に出ましたが凡そ一時間位で西京に着きましたゆえ其日は北野(きたの)の天満宮(てんまんぐう)賀茂(かも)の社(やしろ)杯(杯へ参詣(さんけい))致(いた)しまして其末嵐山(あらしやま)までも見物(見物)致(いた)しました。 | アサヌ ハチジニ ンジ ヤビタスイガ ウーカタ イチジカングレー ウウデー サイチョー ツィチャビタクトウ ウヌフイーヤキタヌヌ ティンマングー カムヌヤシルンデー サンチーツン ウリカラ アランヤママディ チンブチ シャピタン。 |
| 11 | p.76 | 今は汽車がござりますで余程(よほど)便利(べんり)でござりましょう。 | ナマー キシャヌ アヤビークトウ ドウツトウ ジュンニナトーヤビーサーヤー。 |
| 12 | p.76 | 左様(さよう)でござります。昔(むかし)とは違(ちが)いました仮令(たと)假令(たと)汽車(こくら)のない処(ところ)でも人力車(にんりきしゃ)がありますから誠に旅行(りょこう)は都合(ごうご)がよろしうござります。 | アンデービル。 ンカシトーカワティ タトウイ キシャヌ ネーン トククルヤティン クルマヌ アヤビークトウ ドウツトウ タペー タユイヌ ユタシク ナトーヤビーン。 |
| 13 | p.76 | 近江(おうみ)八景(はっけい)は御覧(ごらん)なされましたか。 | オーミヌ ハッチーヤ ウミカキシエーガ シャピタラ。 |
| 14 | p.76-77 | 別段(べつだん)廻(まわ)ては見(み)ませなんだがあの名高(なこう)き膳所(ぜんじょ)の城(しろ)へは鎮台(ちんたい)分營(ぶんえい)が建築(けんちく)になりましたで矢張(やじやう)昔(むかし)の様に奇麗(きれい)な景色(けいせき)でござります。 | ビツィダン ミグテーナービランタスイガ アヌ ナダケー ゼゼヌ グスイクネー チンダイブンエイ ツィクティ チョードウ ンカシヌ グトウイー チーチ ヤヤビーン。 |
| 15 | p.77 | 鈴鹿峠(すずかとうげ)は随分(ずいぶん)険峻(けんくわん)なわけ(わけ)でござりましたが広(ひろ)き道(みち)が出来(でき)た様子(ようす)でありますから昔(むかし)の様にありますまい。 | スズカトーゲー ドウツトウ ナンジュ ヤヤビータスイガ ミチヌ フィルク ナトール ヨーシヤ ヤヤビークトウ ンカシヌ グトー アラン ハヅィ デービル。 |
| 16 | p.77 | 左様(さよう)でござります。道(みち)も大分(おほぶん)よくなりておりますし殊(こと)に彼(か)の筆捨(ふですて)で山(やま)の景(けい)伊勢(いせ)の海杯(うみ)を眺(なが)まして余(あま)り苦(くる)にもなりませなんだ。 | アンデービル。 ミチン ドウツトウ ユタシク ナトーイー ウヌウイ アヌ フディスイティヤマヌ チーチ イセヌ ウミンデー ナガミティ アンマディ クルシミネー ナヤビランタン。 |
| 17 | p.77 | 御泊(ごはく)りは何(なに)の宿(しゆく)でござりましたか。 | ウドウマイイ ミショーチャセー マーヌ シュクガ ヤヤビータラ。 |
| 18 | p.77 | 未だ早(はや)うはござりましたが坂(さか)の下(した)駅(えき)にた(た)えきで泊(は)りました。 | マーダ フェーサー アヤビータスイガ サカヌスタエキナカイ トウマヤピタン。 |
| 19 | p.77 | それ(それ)では翌(あした)日(ひ)津(つ)駅(えき)迄(まで)御越(ごこ)しになりましたか。 | アンシエー ナーチャー ツエキマディ イメンシエーガジャピタラ。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|---|--|
| 9 | フェーク *チチミソーチャンディ ウムトーイイ ビーシガ、チャー ヤイイビーガ。 | *「ウチチミソーチャンディ」でもよい。 |
| 10 | アサヌ ハチジニ ツンジヤビタシガ、ウーカタ イチジカングレーウウテー サイキョーンカイ チチャビタクトゥ、ウヌ フィーヤ キタノティン マンゲー、カモヌ ヤシロンデー * <u>ウウガミ</u> <u>ツ</u> ウリカラ アラシヤママディ ** <u>ケンブツ</u> サビタン。 | *大道氏は「ウウガディ」がよいという。 **国吉氏は「チンプチ」がよいという。 |
| 11 | ナマー キシヤヌ アイイビークトウ、* <u>ユフドウ</u> ベンリ ナトーイイビークサーヤー。 | *国吉氏は「ユカイ (ネー)」がよいという。 |
| 12 | アン ヤイイビーン。ンカシトー カワティ、タ トウイ キシヤヌ ネーン トウクルヤティン、クル マヌ アイイビークトウ、* <u>イッペー</u> タペー ** <u>チゴ</u> ユタシク ナトーイイビーン。 | *国吉氏は「イイー サコー」がよいという。 **国吉氏は「イイー アンペー」がよいという。 |
| 13 | オーミハッカーヤ ウミカキシエービティ。 | |
| 14 | * <u>ビチダン</u> ミグテー** <u>ナービラン</u> タシガ、アヌ ナーヌ タッチョール ゼゼヌ グシクネー チ ンダイブンエー チュクティ、チョードウ ンカ シヌ グトウ イイー *** <u>チーチ</u> ヤイイビ ーン。 | *国吉氏は「カワティ」がよいという。 **渡名喜氏は「ウイイビラン」がよいという。 ***「チーチ」は80代以上の話者がよく使用する単語である。 70代以下は、「イイー チーチ」だと「よい景色」ではなく、 「良い気持ち」の意で使用されるため、「景色」の意で使用する 場合は「チシチ」を使用する。本稿では80代以上の話者の使用 する「チーチ」で示す。 |
| 15 | スズカトーゲー ユフドウ ナンジユドウクル ヤ イイビータシガ、ミチヌ フィルク ナトール ヨ ーシ ヤイイビークトウ、ンカシヌ グトー アラ ン ハジ ヤイイビーン。 | |
| 16 | アン ヤイイビーン。ミチン イッペー マシ ナトーイイ ウヌ ツウイー アヌ フデステヤマ ヌ チーチ イセヌ ウミンデー ナガミティ ア ンマディ ナンジエー アイイビランタン。 | |
| 17 | ウトウマイイ ミソーチャシエー、マーヌ シュク ガ ヤイイビータラ。 | |
| 18 | マーダ フェーサー アイイビータシガ、サカヌ シタエキ* <u>ナカイ</u> トウマイイビタン。 | *70代の話者のなかには、ここで「ンカイ」を使用する 人もいる。 |
| 19 | アンシエー ナーチャー ツエキマディ ツメン シエーガ サビタラ。 | |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|---------|---|---|
| 20 | p.77-78 | 馬車に乗りましたゆえ正午少し過ぎ着致しまして阿漕(あこぎ)が浦で引綱(ひきあみ)を致させました。 | バシヤ スタクトウ クヌツスリウテー ツイチ アコギガウラウティ フィキアミンデー シミヤビタン。 |
| 21 | p.78 | なるほど古歌杯にもござりますが、彼処(あそこ)の引綱は面白くござりましょう。 | シー、クカンデーナカイン アヤビーシガ アマヌフィキアメー ウムッサラ ハヅィ デービル。 |
| 22 | p.78 | 随分慰(なぐさみ)になりました。 | ドウトウ ナグサミニ ナヤビタン。 |
| 23 | p.78 | 二見(ふたみ)の浦(うら)の御見物は如何でござりましたか。 | フタミノウラス グチンブツエー チャーガ ヤヤビータラ。 |
| 24 | p.78 | 実に清潔(きれい)な所で日の出の模様などは錦絵(にしきえ)の通りでござりました。 | ジンニ チリーナクトウクル ヤティ フィーヌンジール ムヨーンデーヤ ニシチイーカワヤピランタン。 |
| 25 | p.78 | 彼(あ)の浦の名産は御求になりましたか。 | アマヌ ナダケームノー ウムトゥミシエーガ シャビタラ。 |
| 26 | p.78 | 貝類(かいりい)を少々求めました。 | ケールイ ウフエー ムトゥミ ヤビタン。 |
| 27 | p.78 | 両宮(りょうぐう)の御札(おふだ)は今でも受られますか。 | タトゥクルヌ ウミヤヌ ウフダー ナマヤティン スディラリーガ シャビーラ。 |
| 28 | p.78-79 | 受けて参りましたが彼(あ)の御宮は誠に御手の届きましたもので内外とも清潔なものでござります。 | スイディティ チャーピタスイガ アヌ ウミヤー ドウトウ ティーイリヌ ユダシャヌ ウチン フカン チリーヤヤビーン。 |
| 29 | p.79 | 我国第一の御社でありますから定て十分の御手が届ておきましょう。御帰路(おかえりみち)の伊賀越(いげご)は大分難義(なんぎ)な所ですが如何でござりました。 | ヤマトウウティヌ イチバンウミヤ ヤヤビークトウ チッシティ ジューブン ティーイリ サットール ツィムイ デービル。ウムドゥイヌ イガゴエー ドウトウ ムツィカシー トウクル ヤヤビースイガ チャー ヤヤビータガ。 |
| 30 | p.79 | 長野峠(ながのとうげ)其外山坂(やまさか)が沢山(さわ)ござりまして小供杯(こども)は余程(よほど)困りましたが復讐(ふくしゅう)の古跡(こせき)、上野(うえの)の本城(ほんじょう)杯(は)を見物致(みぶつ)しましたので私共(わが)は随分面白くござりました。 | ナガノトゲ ウヌ フカ サカフィラス ウフサヌ ワラビンチャーヤ ドウトウ スクエーチャーヤビータスイガ ティチウチヌ アタットウクロー ウエヌ グスイクンデー チンブツィシ ワッターヤ ドウトウ ウムッサヤビータン。 |

■第六章 旅行ノ部 第三回

| | | | |
|---|------|--|--|
| 1 | p.79 | 近々遠方(えんぼう)へ御越しになると承りましたが何処(どこ)へ御出になりますか。 | クヌウチ トゥーサンカイ ウクシミシェンディイチ チチヤピタスイガ マーンカイ イメンシエービーガ。 |
| 2 | p.80 | 沖繩(おきな)迄(まで)参(ま)る積(つ)りでござります。 | ウチナーマディ イチュル カンゲー ヤヤビーン。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|---|--|
| 20 | バサ ヌタクトウ、*アサバシジブン アトウウウ テー チチ、アコギガウラウウティ フィチアミ ンデー シミヤビタン。 | *渡名喜氏は「ジューニジスギネー」、林氏は「フィル スギウウッテ」がよいという。 |
| 21 | ンチャ(ナルフドゥ)、*クカンデー **シカイ ン アイビーシガ、アマヌ フィチアメー ウム ツサル ハジ ヤイビーン。 | *渡名喜氏は「ンカシウタ」がよいという。 **山田氏は「ナカイ」も使用することがあるという。 |
| 22 | ユフドゥ *ナグサミ ナイビタン。 | *大道氏は「ナグサミニ」がよいという。 |
| 23 | フタミヌウラス ミームノー チャー ヤイビー タガ。 | |
| 24 | ジュンニ *ミグトウ トウクル ヤティ **フィー ヌ ヅンジール ムヨーンデーヤ ***ニシチイ イー カワヤビランタン。 | *「チビラーサル」でもよい。*渡名喜氏は「ティーダ」、林 氏は「アガイ ティーダ」がよいという。***林氏は「ニシ チイース トゥーイ ヤイビータン」がよいという。 |
| 25 | アマヌ ナーギムノー ウムトウミシエーガ サ ビタラ。 | |
| 26 | *ケールイ ウフェー ムトウミ ヤビタン。 | *国吉氏は「ケンデー」でもよい。 |
| 27 | タトゥクルヌ ウミヤヌ ウフダー ナマヤティン *ウーキラリーガ サビーラ。 | *渡名喜氏は「イタダチャーリーガ」がよいという。以下 同じ。 |
| 28 | ウーキティ チャービタシガ、アヌ ウミヤー ユフドゥ ティーイリヌ ユタサヌ ウチン フカ ン チリーン ヤイビーン。 | |
| 29 | *ヤマトウウウティヌ イチバンウミヤヤイビー ク トウ、サダミティ ジューブン ティーイリ サツ ール チムイ ヤイビーン。ウムドウイヌ **イ ガクイー(イ)シエー ヌフドゥ ムチカシー トウ クル ヤイビーシガ、チャー ヤイビータガ。 | *林氏は「ヤマトウウウッテ イチバンス」がよいとい う。 **林氏は「イガグィースシエー」がよいという。 |
| 30 | ナガノーゲ、ウヌ フカ サカフィラス ウフサ ヌ ワラビンチャーヤ ヌフドゥ *スックエーチ ヨーイビータシガ、ティチウチヌ アタツウク ロー ウエノヌ グシクンデー チンブチッシ ワッターヤ マクウニ ウムツサイビータン。 | **林氏は「ナンジクンジソーイビータシガ」がよいと いう。 |

■第六章 旅行ノ部 第三回

| | | |
|---|--|---------------------|
| 1 | クスウチ トゥーサンカイ メンシェンディ イ チ、*チチャピタシガ、マーンカイ メンシェー ビーガ。 | **林氏は「チチャピタ」がよいという。 |
| 2 | ウチナーマディ イチユル *カンゲー ヤイ ビーン。 | *国吉氏は「チムイ」がよいという。 |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖縄対話』本文(沖縄語) |
|----|-------------|--|--|
| 3 | p.80 | 夫れは大分遠方でございますが何の御用でありますか。 | アンシ ドードウ トゥーサンカイ ウヤミシエー ビースイガ ヌーヌ ウユージュヌガ サート ーヤビーラ。 |
| 4 | p.80 | 近頃の模様(もよう)を一返(いっぺん)見たくありますから思い立ちました。 | クヌグルヌ ムヨー イチドー ミーブシャク トゥ ウミタチャビタサー。 |
| 5 | p.80 | 鹿児島から海路(かいろう)どれだけござりましょう。 | カグシマカラ フナミチエー チャヌシャク アヤビーガヤー。 |
| 6 | p.80 | 元は三百里余と申しましたが唯今では百八十六里計りに定りました様子でございます。 | ムトー サンビヤクリ アマインディ イヤビ ータスイガ ナマー ヒャークハチジュールクリ バカーイイ ナートル ヨースイ ヤヤビーン。 |
| 7 | p.80 | 七島灘は余程(よほど)航海(こうかい)の難(ひ)義(ぎ)な処(ところ)と聞いておりますが日向(ひゅうが)灘(な)と比(くら)べましたら何方(どち)らがきつうござりましょう。 | シチトーナダー ドウツウ フナワタイヌ ムツイカシー トウクルンディ イチ チチョ ーヤビースイガ ヒューガナダトゥ フィンタ ラー マーヌガ チューサヤビーラヤー。 |
| 8 | p.80 | 左様(さよう)さ七島灘(しちじまな)がひどくござりましょう。 | アンヤヤビーサ、シチトーナダヌドウ チ ューサラ ハヅィ デービル。 |
| 9 | p.81 | 大島(おおしま)とか申島(まうじま)は大(おほ)へん大きな島(しま)と申しますが船泊(せんぱく)の場所(ばしょ)はござりませぬか。 | ウーシマンディガ ヤラ イユル シマー ド ウツウ ウフジマンディ イヤビースイガ フ ニツイキパー ネーンガ アヤビーラ。 |
| 10 | p.81 | 郵便船(ゆうびんせん)の往来(わらい)には大概(たいたい)入れる港(みなと)がござります。 | ユービンシンヌ ソンジャイイチャイニ マヅ イリール ソミヤトウヌ アヤビーン。 |
| 11 | p.81 | 何(なに)と申(まを)す港(みなと)でござりますか。 | ヌーディ イユル ソミヤトウガ ヤヤビーラ。 |
| 12 | p.81 | あれは名瀬(なせ)港(みなと)と申(まを)します。 | アレー ナジンミヤトウンディ イヤビーン。 |
| 13 | p.81 | 能(よ)き港(みなと)でござりますか。 | イー ソミヤトウガ ヤヤビーラ。 |
| 14 | p.81 | 余(あま)りよき港(みなと)ではござりませぬで荷揚杯(にあげなど)は誠(まこと)に不便(びんべん)な処(ところ)でござります。 | アンマディ イーソミヤトー アヤビラン。ニ ー ヌブシタイイ ヌーシャイイヌ ドウツウ フタクイイナ トウクル デービル。 |
| 15 | p.81 | 夫(あま)れより沖縄(おきなわ)の那覇(なは)港(みなと)迄(まで)は余程(よほど)ござりますか。 | ウリカラ ウチナヌ ナーフアヌ ソミヤト ウマデー ユフドゥ アイガ シャビーラ。 |
| 16 | p.81 | 鹿児島(かごしま)から大島(おおしま)までよりは少し近い様(よう)に思(おも)います。 | カゴシマカラ ウーシママディ ヤカー ウ フェー チカサンディドゥ ウマーリヤビール。 |
| 17 | p.81- 82 | 此(こ)地(ち)とは都(みやこ)での事(こと)が余程(よほど)違(ちが)いませう。 | クマトー スイビタイヌ クトゥ ユフドゥ チ ガトーラ ハヅィ デービル。 |
| 18 | p.82 | はい、言葉(ことば)と気候(きこう)は大分(おほ)違(ちが)います。 | ウー、クウバンデー チコーンデーヤ ド ウツウ カフトーヤビーン。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|---|---|
| 3 | アンシ ユフドウ トゥーサンカイ ヤミシエービーシガ、ヌーヌ * <u>ユージュヌ</u> <u>アミシエービーガ</u> 。 | *「ウージュヌガ サートーイイビーラ」でもよい。 |
| 4 | クヌグルヌ *ムヨー ** <u>イチドー</u> ミープサタク トウ、ウミタチャピタン。 | *国吉氏は「ヨージ」がよいという。 *林氏は「チュケーンヤ」がよいという。 |
| 5 | カゴシマカラ フナミチエー チャヌ サク アイビーガヤー。 | |
| 6 | ムトー サンビヤクリ アマインディ *ツヤビータシガ、ナマー ヒヤークハチジュー** <u>ロクリ</u> ビ ケージ ナトール ヨーシ ヤイビーン。 | *「ツヤト (イイ) ビータシガ」でもよい。なお、渡名喜氏は「イヤビーンガ」がよいという。 **70年代以下の話者は「ルクリ」より「ロクリ」がよいという。以下同じ。 |
| 7 | シチトーナダー ユフドウ フナワタイヌ ムチカシー トウクルンディ イチ チチョーイビーシガ、ヒューガナダトウ クラビーン、マーヌガ * <u>チューサイビーガヤー</u> 。 | *「アラサイビーガヤー」ともいう。 |
| 8 | アン ヤイビーンサ。シチトーナダヌドウ * <u>チューサル</u> ハジ ヤイビーン。 | *「アラサル」ともいう。 |
| 9 | オーシマンディガ * <u>ヤラ</u> ツユル シマー ユフドウ ウフジマンディ ツヤビーンシガ、** <u>フニチキバー</u> ネーンガ アイビーン。 | *国吉氏は「ヤラ」を入れないほうが分かりやすいという。 **国吉氏は「トゥマイエー」か「ンナトー」がよいという。 |
| 10 | ユービンセンヌ ツンジリ * <u>ヌバソー</u> ** <u>マジ</u> イリール <u>ンナトウヌ</u> アイビーン。 | *大道氏は「ネー」がよいとする。 **国吉氏は「ウーカター」がよいという。 |
| 11 | ヌーンディ * <u>ツユル</u> <u>ンナトウガ</u> ヤイビーン。 | *渡名喜氏は「イユル」がよいという。 |
| 12 | アレー ナゼ <u>ンナトウンディ</u> ツヤビーン。 | |
| 13 | イー <u>ンナトウガ</u> ヤイビーン。 | |
| 14 | * <u>アンマディ</u> イイー <u>ンナトー</u> アイビラン。ニー ** <u>ヌブシタイ</u> 、 <u>ヌーサイヌ</u> ユフドウ <u>フビンナ</u> トウクル ヤイビーン。 | *「アンスカ」でもよい。 **国吉氏は「ヌブタイウルチャイネー」がよいという。 |
| 15 | ウリカラ ウチナーヌ ナーファヌ <u>ンナトウ</u> マデー ユフドウ <u>アイガ</u> サビーン。 | |
| 16 | カゴシマカラ オーシママディヤカー ウフェー チカサン* <u>ディル</u> ウマーリ ヤビーン。 | *「ディール」とも発音することがある。 |
| 17 | * <u>クマトー</u> シビタイヌ クトゥ ユフドウ ** <u>チガトール</u> ハジ ヤイビーン。 | *林氏は「クマトウミヤクトー」のように「都」を入れた方がよいと主張する。 **大道氏は「カワトール」がよいという。 |
| 18 | ウー、クトゥバトゥカ ハダムチンデーヤ * <u>ユカイ</u> <u>カワトー</u> イビーン。 | *「ユフドウ」にするとやや軟らかい言い方になる。 |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖縄語) |
|----|------|---|---|
| 19 | p.82 | 風俗は如何でござりましょう。 | フーズコー チャーガ ヤヤビーラ。 |
| 20 | p.82 | 数百里隔てた処でありますから何事も少しづつは違っている様でござります。 | スーヒヤクリ フィジトール トククル ヤヤビークトゥ ヌーグトゥン ウフィナーヤ カワトール グトーヤビーン。 |
| 21 | p.82 | 首里城は那覇の何方(どちら)に当りまして何里ばかり距(はな)れておりますか。 | シュイグスイコー ナーフアヌ マームティナカイ アティ ナンリバカーイイ ハナリトーヤビーガ。 |
| 22 | p.82 | 東の方にて凡一里半位もありませんか。 | アガリムティナカイ アティ ウーカタ イチリハンヌ シヤクン アヤビーラ ハジイ。 |
| 23 | p.82 | 只今は空(あい)ておりますか。 | ナマー アチガ ウウイビーラ。 |
| 24 | p.82 | 否え、陸軍の分遣隊(ぶんけんたい)が入居るとか聞きました。 | アヤビラン、リクグンヌ ブンケンタイヌ イッチョーシディ チチャビタン。 |
| 25 | p.82 | 鎮西公の廟(びょう)は何と申処にありますか。 | タミトゥムコーヌ ビューヤ ヌーンディ イェットウクルナカイ アヤビーガ。 |
| 26 | p.83 | 鎮西公の廟は存じませぬが舜天(しゅんてん)王以下歴代の廟は首里と那覇の間にある泊村の崇元(すうげん)寺と申す寺院でござります。 | タミトゥムコーヌ ビューヤ シヤビランスイガ シュンティンコーカラ シチャ デーデーヌ グビューヤ シュイトウ ナーフアトヌ エーナカイ アル トウマイムラヌ スーギージンディ ユル ウティラ ヤヤビーン。 |
| 27 | p.83 | 先島(さきしま)迄も御越しになる御積りでござりますか。 | サチシママディン イメンシエール ウカンゲーガ ヤヤビーラ。 |
| 28 | p.83 | 向(さき)の模様次第に致しようと思っております。 | サチヌ ムヨーシデーニドゥ ナイエー サンカヤーンディ ウムトーヤビール。 |
| 29 | p.83 | 御出立の節には一寸御知らせ下されませ。 | グシュツタチヌ バシヨー チャーン シラチウタビミシエービリ。 |
| 30 | p.83 | 何れ私が御暇乞(おいとまごい)にあがる積りでござります。 | チャーシン ワーガ ウイトウamani ユシリール カンゲー ヤヤビーン。 |

■第六章 旅行ノ部 第四回

| | | | |
|---|------|--|--|
| 1 | p.83 | 此間辺土(へど)へ御祈願(ごきぐわん)に御出なされたと聞きました誠(まこと)に御越になりましたか。 | クネーダフィドゥンカイグチグンニ イメンショーチャンディイチチチャビタスイガジントーイメンシエーガ シヤビタラ。 |
| 2 | p.84 | はい、彼処へは門名申し合して九年目毎に参詣(さんけい)しておりますが今度も其年に當りましたから私が参りまして昨日帰りました。 | ウー、アマー イチムンジュー ソーダンツシクニミゴトニ サンチー ショーヤビースイガクドゥン ウヌ トゥシニ アトーヤビークトゥワーガ ンジ チヌドゥ ケーヤビタサー。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|---|
| 19 | *クラシヌ ナレーヤ チャーガ ヤイビーラ。 | *「フーゾク」でもよいという意見もあった。 |
| 20 | スーヒャクリ フィジャミタル *トウクル ヤイビークトウ、ヌーグトウン ウフィナーヤ カワトール グトーイビーン。 | *国吉氏は「トウクル ドウ」と強調した方がよいとい う。 |
| 21 | スイグシコー ナーフアヌ マームティーナカ イ アティ、ナンリ * <u>ビケージ</u> ハナリトーイビ ーガ。 | *「ビケーン」でもよい。 |
| 22 | アガリムティーナカイ アティ、ウーカタ イチリ ハンヌ サクン アイビール ハジ。 | |
| 23 | ナマー アチガ ウウイビーラ。 | |
| 24 | アイビラン、リクグンヌ プンケンタイヌ イッ チョーニンディイチ、チチャビタン。 | |
| 25 | タメトモコーヌ ビューヤ ヌーンディ * <u>ツユツトウクルナカイ</u> アイビーガ。 | *渡名喜氏は「イッ」がよいという。以下、同じ。 |
| 26 | タメトモコーヌ ビューヤ * <u>シヤビランシガ</u> 、 シュンテンコーカラ シチャ デーデーヌ グ ビューヤ スイトウ ナーフアトウヌ ツウエーダ **ニ アル トウマイムラヌ スーギージンデ ィ ツユル ウティラ ヤイビーン。 | *林氏は「シツチャー ウイビラン」がよいという。 **山田氏は「ナカイ」を使用することもあるという。 |
| 27 | * <u>ナークイエーママディン</u> メンシェール カン ゲー** <u>ガ</u> ヤイビーラ。 | *林氏は「サチシマ」がよいという。 **林氏は「ドウ ヤイビールイ」がよいという。 |
| 28 | サチヌ ムヨージデーニドゥ ナイエー サンガ ヤーンディ * <u>ウムトーイビール</u> 。 | *林氏は「ウムトーイビーン」のように「ドウ」の結びの形を とらない。 |
| 29 | ツンジタチヌ バソー チャーキ シラチ ウタ ビミシェービリ。 | |
| 30 | * <u>チャーシン</u> ワーガ ウイトウマニ ユシリール カンゲー ヤイビーン。 | *林氏は「イチカー」がよいという。 |

■第六章 旅行ノ部 第四回

| | | |
|---|--|--|
| 1 | クネーダ * <u>フイドンカイ</u> ** <u>グチグワンニ</u> メンソーチャンディ イチ チチャビタシガ、 *** <u>ノーフンヌ</u> メンシェーガ サビタラ。 | *渡名喜氏は「ヘド」がよいという。*「ウウガミシー ガ」でもよい。***「ジュンニ」でもよい。また、林氏 は「フントーニ」がよいという。 |
| 2 | ウー、アマー イチムンジュウ ソーダンツシ * <u>クニンミグトウニ</u> ** <u>サンチャー</u> ソーイビーシ ガ、クンドウン ウヌ トウシニ アターイビーク トウ、ワーガ ツンジ チヌードウ ケーヤビタサ。 | *渡名喜氏は「クニングトウ」がよいという。 **渡名喜氏は「サンケー」がよいという。以下、同じ。 |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|---------|---|--|
| 3 | p.84 | えー、左様でありましたか御疲(おつかれ)れでござりましょう。 | イエー、アンガ ヤヤビータラ ウクタンデミ ショーチャラ ハヅィ デービル。 |
| 4 | p.84 | 駕籠で参りましたが揺(ゆ)られましたゆえか少し疲れた様でござります。 | カグカラドウ イチャビタスイガ ウーラツタル ユイガ ヤラ ウフェー クタンデイトール グトー ヤビーサー。 |
| 5 | p.84 | 東宿(ひじゃじゅく)を御通りなされたか。 | フィジャジュクガ ウトゥーミシエービタラ。 |
| 6 | p.84 | 往(ゆ)きには西宿を通りまして還(かえ)りには東宿を通りました。 | イチーネー ニシジユク トゥーティ ケーイーネー フィジャジュクトゥーヤビタン。 |
| 7 | p.84 | 此処(ここ)を御立になりました日は何処(どこ)へ御宿(おとまり)なされました。 | クマカラ ウタチミショチャル フィーヤ マーナカイガ ウトゥマイミシエービタラ。 |
| 8 | p.84-85 | 読谷山(ゆんたんざ)番所へ一宿(とまり)まして其翌日(よくじつ)は早く恩納(うんな)番所へ着ましたから万座毛(まんじゃもう)迄も廻(まわり)ました。 | エンタンバンジャ バンジュナカイ トウマティ ウヌ ナーチャー フェーク ウンナ バンジュ ツイチャビタクトウ マンザモーマディン ミグティナービタサー。 |
| 9 | p.85 | 如何(どん)な模様(よう)の所でござります。 | チャーラ カッコーナ トウクルガ ヤヤビラー。 |
| 10 | p.85 | 彼処(あそこ)の芝(しば)は外の所とは違(ちが)いまして奇麗(きれい)でありますから筵(むしろ)杯敷(しき)ませずともすぐに座(すわ)って居られます。 | アマヌ アシジレー ビツイトー カワティ チリーニ アヤビークトウ ムシルンデーヤ シカンティン スイグ イイラリヤビーン。 |
| 11 | p.85 | 成程昔(むかし)国王(こくおう)の御巡見(ごじゆんみ)の節、此処(ここ)は万人(ばんにん)でも座(すわ)て居られると御話し(ごわし)になりましたで夫(つま)から万座毛(まんじゃもう)と申(まを)してはおりませぬか。 | ンチャ、ンカシ ウシユガナシーメーヌ グジユンチンヌ ウバシユ クマー マンニンヤティン イイラリーンヤーンディ ウフアナシミシヨーチヤクトウ ウリカラ マンザモーンデーイチェー ウウヤビランカヤー。 |
| 12 | p.85 | はい、左様に聞(き)ております。 | ウー、アンシ チチョーヤビーン。 |
| 13 | p.85 | 景色(けいせき)は如何(どん)でござります。 | チーチェー チャーデービルガ。 |
| 14 | p.85-86 | 名護(なご)、本部(もとぶ)杯(は)も見(み)え、山原(やんばる)へ往還(わうわん)する舟(ふね)も前(まへ)を通りますから誠(まこと)に好(こ)い景色(けいせき)でござります。 | ナグ ムトゥブンデーニ ミーユイイ ヤンバル ウークワン シュル フニンメーカラ トゥーヤビークトウ ドウツトウ イーチーチデービル。 |
| 15 | p.86 | 恩納嶽(うんなだき)へ登(のぼ)りて御覽(ごらん)になりましたか。 | ウンナダキ スブティ ウミカキミシエーガ シヤビタラ。 |
| 16 | p.86 | 登(のぼ)りは致(いた)ませぬが番所(ばんじよ)より見(み)しても余程(よほど)高い様(よう)にありました。 | ヌプイエーシャビランタスイガ バンジュカランチン ドウツトウ タカサル グトーヤビータン。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|---|
| 3 | イエー、アンドウ ヤイビーテー。ウクタンデ イミソーチャル ハジ ヤイビーン。 | |
| 4 | カグカラドウ イチャビタシガ、ウウーラツタル ユイイガ ヤラ、ウフェー クタンデイトール グ トー イビーッサー。 | |
| 5 | * <u>フィジャジュクガ</u> ウトウーミシエービタラ。 | *国吉氏は「フィジャジュク ウトウーミシエービタガヤー」 がよいという。また、林氏は「フィジャジョー」（東宿は） がよいという。 |
| 6 | イチーネー ニシジユク トウーティ ケーイイ ネー * <u>フィジャジュク</u> トウーヤビタン。 | *渡名喜氏は「ヒガシジユク」がよいという。 |
| 7 | クマカラ ウタチミソーチャル フィーヤ * <u>マー ナカイガ</u> ウトウマイミシエービタラ。 | *国吉氏は「マーンジガ」でもよいという。 |
| 8 | ユンタンザ バンジュンカイ トウマティ、ウヌ ナーチャー フェーク ウンナ * <u>バンジュ チチャビタクトウ</u> 、マンザモーマディン ミグ ティ ** <u>ナービタッサー</u> 。 | *林氏は「バンジュンガイイ」がよいという。 **山田氏は「チャービタサ」も使用するという。また、 渡名喜氏は「チャービタン」、林氏は「チャービタッサー」 がよいという。 |
| 9 | * <u>チャー</u> ル <u>ムヨース</u> トウクルガ ヤイビー ラ。 | *「ヨース」でもよい。なお、大道氏は「チャヌ フ ージナ」がよいという。 |
| 10 | アマヌ アシジレー ビチトー カワティ、* <u>チリ ー</u> ヤイビークトウ、ムシルンデーヤ シカン ティン シグ イイラヤビーン。 | *山田氏は「チリーン」がよいという。 |
| 11 | ンチャ、ンカシ ウシユガナシーメース * <u>グジ ユンチンヌ</u> ** <u>バス</u> クマー マンニンヤティン イイラレーンヤーンディ ウファナシ ミショーチャ クトウ、ウリカラ *** <u>マンザモーンデー</u> イチエ ー ウウイビランガヤー。 | *渡名喜氏は「ウマーイミソーチャル」がよいという。 **林氏は「バスヤ」がよいという。 ***林氏は「マンザモーンデー」がよいという。 |
| 12 | ウー、アンシ チチョーイビーン。 | |
| 13 | チーチェー チャー ヤイビーガ。 | |
| 14 | ナグ ムトウブンデーン ミーユイイ、ヤンバル * <u>イチムドクイニスル</u> フニン メーカラ トウーイ ビークトウ、イッペー イー ** <u>チーチ</u> ヤイ ビーン。 | *林氏は「イチヤイイムドクタイイ」がよいという。 **山田氏は「ナガミ」がよいという。なお、「チーチ」 については第2回NO14の「注」を参照されたい。 |
| 15 | ウンナダキ スブティ ウミカキミシエーガ サビ タラ。 | |
| 16 | ヌブイエー サピランタシガ、バンジュカラ ン ーチン イッペー タカサル グトーイビー タン。 | *備考では「ンチン」である（国吉氏）。 |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|---------|--|--|
| 17 | p.86 | 番所には徐葆光(じょほうこう)の額を掲げてであると聞きましたが如何でござります。 | バンジュネー ジュフーコーヌ ガク アギテー ミシェンディ チチャビタスイガ チャーガ ヤヤビーラ。 |
| 18 | p.86 | 数峰天遠と書てありますが能く景色に相応している様に思われます。 | スーホーティンエンンディ イチ カチエーミ シェービスイガ ユー チーチウ ソーウウー ショール グトーンディ ウマーリヤビーン。 |
| 19 | p.86 | 許田(ちゆだ)の手水(てみず)と云所や、数久田轟(すったとどるき)杯も御覧なされましたか。 | チュダヌ テイミヅインディ イユットウクルンデー スッタウドウルチンデー ウミカキミ シェーガ シャビタラ。 |
| 20 | p.86-87 | はい、許田の手水と云うは名高き所ですが今では名所の様にはありませんね彼(あ)の数久田轟は誠に奇らしき所でございます。 | ウー、チュダヌ テイミヅインディ イユセーナダケー トウクル ヤヤビスイガ ナマンシェー ミーシュヌ グトウンネーヤビラン アヌスッタウドウルチエー ドウツウ ミズイラシー トウクル デービル。 |
| 21 | p.87 | 彼の滝は何(ど)の位から落ちますか。 | アヌ タチエー チャヌ シャクカラ ウティヤビーガ。 |
| 22 | p.87 | 大概三丈位の所から落ちますかが幅は五六尺もありそうに見えております。 | テーゲー サンジューグレース トウクルカラ ウティヤビスイガ ハパー グルクシャクンアラ ハズイ デービル。 |
| 23 | p.87 | 左様でございますか其様な処が近辺にありますれば暑気の頃採には別してよろしうござりましょう。 | アン ヤイイガ シャビーラ。ウヌ グトールトウクルヌ チカフィンナカイ アイドウンセー シュチヌ クルンデーネー ビンティ ユタシャヤビスイガ。 |
| 24 | p.87 | 左様でございます。 | アンデービル。 |
| 25 | p.87 | 名護からは羽地(はにじ)の方へ御越になりましたか。 | ナグカラー ハニジンカイガ ウクシミシェービタラ。 |
| 26 | p.87-88 | 否(いいえ)、本部の方を通りましたが本街道(ほんかいどう)は以前通りて見ましたゆえ、今度(こんど)は娯娥道(じょうがみち)を参りましたら、近うはござりましたが駕籠も通いませず誠に難義を致しました。 | アヤビラン。ムトウブンカイ トゥーヤビタスイガ フンドーヤ クヌメー トゥーティ ンチョー ヤビータクトウ クリウウテー ジョーガミチ トゥーティンデー チカサー アヤビスイガ カグン トゥーラン ドウツウ ナンジシャビタサー。 |
| 27 | p.88 | 本部番所は能き景色の所と申しますが如何でござりますか。 | ムトウバンジョー イー チーチヌ トウクルンディ イヤビスイガ チャー デービルガ。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|---|
| 17 | バンジュネー ジュホーコーヌ ガク アギテー ミシエンディ チチャビタシガ、チャーガヤイビーラ。 | |
| 18 | スーホーテンエンディ イチ カチエーミシエービーシガ、ユー チーチトウ *ソーウーソール グトエンディ ウマーリヤビーン。 | *国吉氏は「ウチャートル」、林氏は「ユー ウチャートル」がよいという。 |
| 19 | * <u>チュダヌ</u> テイミジンディ ツコツトウクルンデー ** <u>スツタウドウルチンデー</u> ン ウミカキミシエーガ サビタラ。 | *渡名喜氏は「キョダ」がよいという。 **渡名喜氏は「スクタ」がよいという。 |
| 20 | ウー、チュダヌ テイミジンディ ツコシエー、* <u>ウトウ ウッチョール</u> トウクル ヤイビーシガ、** <u>ナマンシエー</u> ミーシュヌ グトウン *** <u>ネーイビラン</u> 。 アヌ スツタウドウルチエー イツペー ミジラシー トウクル ヤイビーン。 | *「ナーダカサル」「ナース タッチョール」がよいという。 **大道氏は「ナマー」、山田氏は「ナマヤレー」、林氏は「ナマンシエー」がよいという。 ***大道氏は「ネーヤービラン」がよいという。 |
| 21 | アヌ タチエー チャヌ * <u>アタイカラ</u> ウティヤビーガ。 | *「グレー」でもよい。 |
| 22 | テーゲー サンジョーグレーヌ トウクルカラ ウティヤビーシガ、ハパー グルクシャクン アル ハジ ヤイビーン。 | |
| 23 | アン ヤイイガ サビーラ。 ウングトール トウクルヌ * <u>チカサナカイ</u> アイドゥンシエー ** <u>シュチヌ クルンデーネー</u> *** <u>ビシテイ</u> ユタサイビーシガ。 | *国吉氏は「チチャドゥクル」か「チカサルトウクル」、林氏は「フィン」がよいという。*渡名喜氏は「ナチヌ アチサルクルネー」、林氏は「アチサルチンデー」がよいとする。***「トクニ」でもよい。なお、林氏は「シチニ」がよいという。 |
| 24 | アン ヤイビーン。 | |
| 25 | ナグカラー * <u>ハニジンカイガ</u> ツメンシエービタラ。 | *林氏は「ハニジンカイドウ」がよいとする。 |
| 26 | アイイビラン。ムトウブンカイ トゥーイイビタシガ、ウフミチエー クヌメー トゥーティ ンーチョーイイビータクトウ、クリウッテー ジョーガミチ トゥーイイネー チカサー アイイビーシガ、カグン トゥーラン イッペー ナンジ サビタサ。 | |
| 27 | ムトウブバンジョー イイー チーチヌ トウクルンディ ツヤビーシガ、チャー ヤイビータガ。 | |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖縄語) |
|----|---------|--|---|
| 28 | p.88 | 渡口港(とぐちみなと)が前に見えまするし瀬(し)底水無(みんな)杯の離れ島を眺めまして随分よろしき処でござります。 | トゥグチ ニミヤトウヌ メーナカイ ミーユイイ シスク ミンナンデーヌ ハナリ ナガミタイツ シ ドウツウ イートゥクル ヤヤビーヌ。 |
| 29 | p.88 | 其れからさきの方の模様は如何でござりましょう。 | ウリカラ サチュー チャール カッコーガ ヤヤビーラ。 |
| 30 | p.88 | 夫れから今帰仁(なちじん)番所で少頃(しばらく)休みまして百按司(むむじやな)墓と申処へ参りましたが昔の人の骨が沢山ござりました。 | ウリカラ ナチジンバンジュナカイ ウフェーユクティ ムムジヤナンディ イェツトウクルンカイ イチャビタスイガ ンカシンチュヌ フニヌ ウフォーク アヤビータサー。 |
| 31 | p.88 | 髑髏は余程大(おほきい)と申ますが実(まこと)でござりますか。 | ツイブロー ドウツウ ウフィジャンディ イヤビータスイガ フヌガ ヤヤビーラ。 |
| 32 | p.88-89 | はい、昔の人は今の人よりは大変大きかったと見えます。 | ウー、ンカシンチョー ナマヌツチュヤカードウツウ ウフィシャテール グトーヤビーヌ。 |
| 33 | p.89 | 羽地田圃(はにじたんぼ)は広い処と申ますが北谷(ちやたん)田圃とは何れが広うござりますか。 | ハニジ ターブックワー フィリートウクルンディ イヤビースイガ チャタンターブックワートウ マーガ フィルサヤビーラ。 |
| 34 | p.89 | 一寸見通される程さらありませぬから北谷とは比べられませぬ。 | チュツウニ ミートウーサリール シヤコーアヤビランクトウ チャタントー フィシラリヤビラン。 |
| 35 | p.89 | 大宜見(おじみ)には七滝と云うがあると申しますが御覧になりましたか。 | ウウジミネー ナナタチンディチ アンディツヤビースイガ ウミカキ ミシェーガ シヤビタラ。 |
| 36 | p.89 | 急でもおりましたし、数久田轟を觀ましたから参りませなんだ。 | イスジン ウウイ スタトウドウルチ ンチョーヤビータクトウ イチャビランタサー。 |
| 37 | p.89 | 国頭(くんじゃん)は坂が沢山あると申しますが如何でござります。 | クンジャンー フィラヌ ウフォーク アンディイヤビースイガ チャーガ ヤヤビーラ。 |
| 38 | p.89 | 誠に陰気坂の多い処で与那(ゆな)の高平(たかひら)辺野喜坂(びぬちびら)座中坂(ざちゆん)武見坂(ぶみびら)杯では大概駕籠より下りて歩行(あるき)しました。 | ドウツウ ムツイカシー フィラヌ マンディユナヌ タカフィラ ビヌチビラ ザチュンビラ ブミビランデーウウター イークル カグカラ ウリティ アッチドウ シヤビタル。 |
| 39 | p.90 | どんな風でござりました。 | チャヌ カッコーガ ヤヤビータラ。 |
| 40 | p.90 | 道が狭き上至て陰険でありますゆえ少し間違ったら大変と思えますから駕籠に乗りては居られませぬ。 | ミチヌ シバサル ウィーニ シグク チンスニ アヤビークトウ ウフィン マチゲー シーネー デージンディ ウムトーヤビークトウ カグナカイ ストーター ウウリ ヤビラン。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|---|
| 28 | トゥグチンナトウヌ メーンカイ ミーユイイ、シ スク ミンナデーヌ ハナリ ナガミタイッシ イッペー イイー トウクル ヤイビーン。 | |
| 29 | ウリカラ サチェー チャール *ムヨー ヤイ ビーラ。 | *「ヨージ」でもよい。 |
| 30 | ウリカラ ナチジンバンジュンカイ ウフェー ユクテイ *ムムジャナンディ ッユットウクルン カイ イチャビダシガ、ンカシンチュヌ **フニ ヌ ウフオーク アイビータッサー。 | *林氏は「ムムジャナバカ」がよいという。 **国吉氏によると「遺骨」の場合は、「フニ」を「クチ」と表現することもできるという。 |
| 31 | チブロー イッペー マギサンディ ッヤビータ シガ、フントーガ ヤイビーラ。 | |
| 32 | ウー、ンカシンチョー ナマヌツチュヤカー イ ッペー マギサテール グトーイビーン。 | |
| 33 | ハニジ ターブブックロー *フィルサツサル トウ クルンディ ッヤビシガ、チャタンターブック ワートウ マーガ フィルサイビーラ。 | *林氏は「フィルサル」がよいという。 |
| 34 | *チュットウニ ミートウーサリール サコー ア イビランクトウ、チャタントー **クラビラリヤビ ラン。 | *国吉氏は「イチューデーシェー」か「チュミーツシー」 がよいという。林氏も後者がよいという。 **「クラブール クトウ ナイビラン」や「クラブー シェー ナイビラン」でもよい。 |
| 35 | *ウウジミネー ナナタチンディチ **アンディ ッヤビシガ、ウミカキミシェービタイ。 | *渡名喜氏は「オーギミ」がよいという。 **大道氏は「アンディ」の前に「ツユシヌ」を入れた方 がよいという。 |
| 36 | イスジン ウウイイ、スツタウドウルチ ンーチョ ーイビータクトウ イチャビランタッサー。 | |
| 37 | クンジャンー フィラヌ ウフオーク アンディ ッヤビシガ、チャー ヤイビーガ。 | |
| 38 | イッペー ムチカシー フィラヌ マンディ、ユ ナヌ タカフィラ、ビヌチビラ、ザチュンビラ、ブ ミビランデーウウテー イークル カグカラ ウ リティ アッチドウ サビタル。 | |
| 39 | *チャヌ フージー ヤイビータガ。 | *「チャングトル」でもよい。 |
| 40 | ミチヌ イバサル ッウィーニ *シグク ウカー サイビークトウ、ウフィン バッペーイイネー イチデージ ナイインディ ウムトーイビークト ウ、カグンカイ ストーテー ウウラリ ヤビラン。 | *林氏は「ジコー」がよいという。 |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|---------|--|--|
| 41 | p.90 | 茅打端(かやうちばんた)へも行きで御覧なされましたか。 | カヤウチバンタン ンジ ウミカキミシエーガ シヤビタラ。 |
| 42 | p.90 | 彼処(あそこ)も六(む)かしい処(ぢ)で歩行(あるき)て往(い)くことは出来(で)ませぬで匍匐(はつ)つて参(ま)りました。 | アマン ムツカシトウクル ヤティ アッチイチュセー ナラン ホーテイドウ イチャビタサー。 |
| 43 | p.90 | 如何(どう)云(い)う訳(わけ)でござりますか。 | チャーレ ナイイガ ヤヤビーラ。 |
| 44 | p.90 | 私は気が弱(よ)くありますから前(まへ)の方(かた)へ引(ひ)れる様に思(おも)いましてどうもなりませなんだ。 | ワンネー チース ヨーサヤビークトウ メンカイ フィカリアル グトウツン チャーン ナヤビランタサー。 |
| 45 | p.90-91 | 成程(なるほど)彼処(あそこ)は茅(か)を束(たば)を束(たば)投(な)げますと下(した)に落(お)る間に離(は)れ散(ち)りますと申(ま)しますが波上(なみみん) (なんみん)よりはどれだけ計(けい)高(たか)うござりますか。 | ンチャ、アマー カヤ クンチ ナギードウンセー シチャ イチュル エーネー ワックイーンディ ヤビースイガ ナンミンヤカー チャヌ シヤク バカーイイ タカサヤビーガ。 |
| 46 | p.91 | 波上(なみみん)の四五層(よんご)倍(ばい)位(ばい)もありませんでござりましょう。 | ナンミンヌ シグゾーバーヌ シヤクン アラ ハヅィ デービル。 |
| 47 | p.91 | 辺戸上原(ひどうえはる)へも御出(ごいで)になりましたか。 | フイドウ ウィバルンカイン イメンシエーガ シヤビタラ。 |
| 48 | p.91 | 祈願(ごん)きぐわん)を済(す)ましてこちらへ帰(かえ)ります日(ひ)一寸(ちよつと)参(ま)りて見(み)ましたが平地(へいぢ)で良(よ)い処(ぢ)でござりました。 | チグワノー スイマチ クマンカイ ケーユルフィー イチュター ンジナーピタスイガ フィーダンニツシ イー トウクル ヤヤビータサー。 |
| 49 | p.91 | 城間粉朱(ぐすくまくーじゅ)と何方(どち)ら(ら)が宜(よ)うござりますか。 | グスクマ クージュ トー マーガ マシ ヤヤビーラ。 |
| 50 | p.91 | 彼処(あそこ)も良(よ)き処(ぢ)でござりますが辺戸上原(ひどうえはる)は土(つち)の色(いろ)が黒(くろ)くて最(と)も沃(わ)壤(じやう) (こえつち)の様(よう)でござりました。 | アマン イートウクロー ヤヤビースイガ フイドウウイパロー ンチャヌ イロー クルクッシ シグク ジョーチヌ グトー ヤイビータサー。 |
| 51 | p.91 | 夫(お)では彼処(あそこ)の地(ぢ)が上(かみ)等(とう)でござりましょう。 | アンシエー アマヌ チカタズドウ イチバンヤラ ハヅィ デービル。 |
| 52 | p.91-91 | はい、国中(くにぢゆう)では先(ま)ず上(かみ)等(とう)の様(よう)に思(おも)われます。 | ウー、ククチュンシエー マズイ イチパンヌ グトーンディ ウマーリヤビーン。 |
| 53 | p.91 | 戻道(むどるみち)は其(その)近(ぢか)辺(べ)でござりますか。 | ムドウル ミチエー ウヌ チンピン デービルイ。 |
| 54 | p.91 | はい、戻道(むどるみち)から辺戸上原(ひどうえはる)へ参(ま)ります。 | ウー、ムドウル ミチカラドウ フイドウウイバルンカイエー イチャビール。 |

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|--|--|
| 41 | カヤウチバンタンカイン ヅンジ ウミカキシエーガ サビタラ。 | |
| 42 | アマン ムチカシートウクル ヤティ アッチ イチュシエー ナイビラン。ホーテイドウ イチャビタル。 | |
| 43 | チャーレ ナイガ ヤイビーラ。 | |
| 44 | ワンネー チーヌ ヨーサイイベークトウ、メームテインカイイ フィカリール グトウツン チャーレン ナイビランタッサ。 | |
| 45 | ンチャ、アマー カヤ クンチ ナギードウンシエー シチャンカイ イチュル ッウエーダネー ワックイーンディ <u>*ツヤビーシガ</u> 、ナンミンヤカーチャヌ アタイイ ビケーン タカサイイベーガ。 | *渡名喜氏は「イラットーイイベーシガ」がよいという。 |
| 46 | ナンミンヌ シグベース サクン アル ハジ ヤイイベーン。 | |
| 47 | <u>*フイドウ</u> <u>**ツウイーバルンカイン</u> メンシエーガ サビタラ。 | *渡名喜氏は「ヘド」がよいという。 *渡名喜氏は「イーバル」がよいという。 |
| 48 | <u>*ウグウメー</u> シマチ クマンカイ ケーユル フイー イチュター ヅンジ <u>**ソージャビタシガ</u> 、フィラチ <u>***ヤティ</u> 、イー トウクル ヤイビータサ。 | *国吉氏は「チグロノー」がよいという。 **「ナービタ」でもよい ***国吉氏は「ナティ」がよいとする。 |
| 49 | グスクマクージュ トー <u>*マーガ マシ ヤイビーラ</u> 。 | *「マーヤ マシ ヤイイベーガ(ヤー)？」でもよい。 |
| 50 | アマン イイー トウクロー ヤイイベーシガ、フイドウツウイーバル <u>*ソーチャヌ</u> イロー <u>**クルクツシ</u> イPPER ケートール グトーイベータサ。 | *確保では「ンチャ」である(国吉氏)。 **強調したい場合は「クルグルートウツシ」(黒々として)にする。 |
| 51 | アンシエー アマヌ <u>*ジージカラズドウ</u> イチバン <u>**ヤル ハジ ヤイイベーン</u> 。 | *渡名喜氏は「ジースドウ」がよいという。*林氏は「ヤル ハジ」を省き、単に「ヤイビール」がよいという。 |
| 52 | ウー、クニジュンシエー マジ イチバンヌ グトーンディ ウマーリヤイベーン。 | |
| 53 | <u>*ムドウイミチエー</u> ウヌ <u>**フィン</u> ヤイビールイ。 | *「ムドウイイルミチエー」でもよい。以下、同じ。 **林氏は「フィン ドウ」がよいという。 |
| 54 | ウー、ムドウイミチカラドウ フイドウツウイーバルンカイエー イチャビール。 | |

| No | 頁 | 本文(和文) | 『沖繩対話』本文(沖繩語) |
|----|------|---|--|
| 55 | p.91 | 成程してそこは如何云う様子でござりますか。 | ハハー、アンシ ンマー チャヌ グトゥガ アヤビーラ。 |
| 56 | p.91 | 道の両方岩立で行違(ゆきちが)って通られませぬゆえ、戻道と言伝えます。 | ミチヌ ローフォー イワヌ タッチ ハイイチ ヤテー トゥーラランッシ ムドウルミチンディ イーツイテートー ヤビーン。 |
| 57 | p.91 | 御帰(おかえり)路はどちらの方へ御越になりましたか。 | ウムドウイェー マーンカイガ イメンシエー ビタラ。 |
| 58 | p.91 | 久志(くし)から金武間切(ちんまじり)の方へ参りましたが彼(あ)の七日浜(なんかばま)と云う処は長い浜で歩行(あるき)でもはかどらず誠に飽果(あきはて)た処でありました。 | クシカラ チンマジリンカイ イチャビタスイガ アヌ ナンカバマンディ イユットウクロー ナ ガフアマ ヤティ アツチン フィナラン ドウ ツウ ヤヤビーターサー。 |
| 59 | p.91 | 今日は御話を聞まして山原へ参りて見た様な心もちでござりました。又、明日参上致します。 | チューヤ ウファナシ チチ ヤンバルンカイ ンジ ンチャル ククチ ヤヤビーサー マタ アチャ チャーピラ。 |
| 60 | p.91 | 左様なら何時(いつ)でも御越なされませ。詳しくわしく御話し致しましょう。 | アンシエー イツイ ヤラワン イメンシエービ リ。 クワシク ウファナシ シヤピラ。 |

おわりに

1. 「ドゥットゥ」をめぐって

仲原他 (2012) ~ 仲原他 (2016) でも述べたように、明治期の首里方言と現代首里方言を比較してみると異なる部分が見えてくる。本稿では「ドゥットゥ」に焦点をあてて分析したい。

首里方言の副詞の一つ「ドゥットゥ」は、国立国語研究所[編] (1963) には「duQtu①(副) duuduと同じ。」とある。そこで同書で「ドゥードゥ」を引くと「duudu ①(副) はなはだ。非常に。とても。ずっと。比較してずっとよい場合に多く用いる。duQtuともいう。悪い場合・劣る場合にはzooiという。~ mizirasii muN. 非常に珍しいもの。~ curasaN. ぐっと美しい。」と説明されている。

「副詞」は日本語でも動詞や形容詞、他の副詞などを修飾する語であり、実際に本稿の「本文(和文)」でも「余程」「誠に」「随分」「大分」「大へん(大変)」に「ドゥットゥ」や「ドゥードゥ」が付されている。

本稿で示された「ドゥットゥ」は以下のような修飾関係がみられる(首里方

| No | 現代首里方言 | 備考欄 |
|----|---|----------------------------------|
| 55 | ハハー、アンシ ンマー チヤングトウガ アイビーラ。 | |
| 56 | ミチヌ * <u>ダトウクル</u> イワヌ タッチ ハイイチャ テー トゥーラランシ ムドウルミチンディ イ ーチテートーイビーン。 | *林氏は「スパー」がよいという。 |
| 57 | ウムドゥイェー マーンカイガ メンシエーピタ ラ。 | |
| 58 | クシカラ チンマジリンカイ イチャピタ シガ、アヌ ナンカバマンディ * <u>ツユツウク</u> ー ナガサル ハマ ヤティ、アッチン フィナ ラン イッペー アチハティ ドウクル ヤイビータサ。 | *渡名喜氏は「イッ」がよいという。 |
| 59 | チューヤ ウファナシ チチ ヤンバルンカイ ツンジ、* <u>シーチャル</u> ククチ ヤイビーサ。マ タ アチャ ユシリヤピラ。 | *儀保では「ンチャル」であり、「ン」は伸びない。 |
| 60 | アンシエー イチ ヤラワン * <u>メシエービリ</u> 。 クマグマートウ ウファナシ サピラ。 | *80代以上の話者は「ツウェンシエービリ」が良いとい う。 |

言の副詞の詳細な分析については稿を改めて報告する。ここでは抜粋して示す)。

表1. 『沖縄対話』の「ドゥットウ」と現代首里方言との対照表

| データの出自 | 本文(和文) | 『沖縄対話』 | 現代首里方言 |
|-----------|--------------------|------------------------|----------------------|
| 第2回 No.11 | 余程 便利で | ドゥットウ ジュンニ | ユフドウ ベンリ |
| 第2回 No.12 | 誠に 旅行は都合 がよろしう | ドゥットウ タバー タユイヌ ユタシク | イッペー タバー チゴー ユタシク |
| 第2回 No.15 | 随分 険峻 | ドゥットウ ナンジュ | ユフドウ ナンジュ |
| 第2回 No.16 | 大分 よく | ドゥットウ ユタシク | イッペー ユタシク |
| 第2回 No.22 | 随分 慰に | ドゥットウ ナグサミニ | ユフドウ ナグサミニ |
| 第2回 No.28 | 誠に 御手の届き ましたもので | ドゥットウ テーイヌ | ユカイ カフトーイビーン。 |
| 第4回 No.31 | 余程 大いと | ドゥットウ ウフィシャンディ | イッペー ウフサンディ |
| 第4回 No.38 | 誠に 陰き | ドゥットウ ムツィカシー | イッペー ムチカシー |
| 第3回 No.3 | 大分 遠方で | ドードウ トゥーサンカイ | ユフドウ トゥーサンカイ |

表1をみると、『沖縄対話』の「ドゥットゥ」「ドゥードゥ」の用例のなかでは「ドゥットゥ」の方が多く使用される(19例)が、「ドゥードゥ」も1例のみ見つけることができた(第3回 No. 3)。

この「ドゥードゥ」に関して、話者の国吉朝政氏は「明治生まれの母親がドゥードゥを使用していたのを記憶している。」と述べている(国吉氏の母は貴族階級の出身)。用例が少なく断じることはできないが、本稿の使用例から察すると国立国語研究所[編](1963)の記述通り、両者には使用差があるとは言い難い。

表1から首里方言の「ドゥットゥ(ドゥードゥ)」について以下のような分析ができる。

- ① 『沖縄対話』にあらわれる「ドゥットゥ」「ドゥードゥ」は、他の副詞(「ジュンニ」「ナンジュ」「ユタシク」「ナグサミニ」等)の前に用いられる用例の方が多い。
- ② 「ドゥットゥ」は、現代首里方言では別の単語(「ユフドゥ」「イッペー」「ユカイ」など)に言い替えられることが多い。
ちなみに、話者によれば、首里でよく歌われる「ダンジュカリユシ」の歌詞に「ドゥットゥ イイー アンペー」(非常によい心地である)という一節があるが、「イイーアンペー」を強調して表現する場合は、「イッペー」をよく使用するが、それ以外だと「ユフドゥ」「ユカイ」よりも「ドゥットゥ」の方がよいという。
- ③ 現代首里方言の場合、形容詞(「大きい」「険しい」「よい」など)の直前の副詞として「イッペー」の方を好んで使用する(または「ユカイ」が他の副詞の前に配置されることが多いとも言える)。

2. 単語の違い

今回の調査結果のなかで、以下のように語彙そのものが異なる場合もある。ここでは「第六章 旅行ノ部」の各回から1語ずつ示す。

| 日本語 | 首里方言 | | 回 番号 |
|-------|-------|----------|------------|
| | 明治期 | 現代語 | |
| 誰 (か) | ター | ターガナ | 第1回 No. 7 |
| 参詣 | サンチー | ウウガミー | 第2回 No. 10 |
| 先島 | サチシマ | ナーク イェーマ | 第3回 No. 27 |
| 四五層倍 | シグゾーベ | シグベ | 第4回 No. 46 |

語彙に関しては、他にもいくつか違いがみられるが、詳しくは稿を改めて報告したいと考えている。

(文責：仲原 穰)

註

- 『沖繩対話』は明治13 (1880) 年に沖縄県学務課によって編集された教科書である (上下2巻の分冊)。本永 (1983 : 554) では本書の作成理由について「藩廳置県直後の沖縄で共通語を教えるため」としている。
- 「旅行ノ部」は、明治13年刊行の初版本『沖繩対話』では「第五章」、明治15 (1882) 年の改正再版では「第六章」である (改正再版本では初版本の第八章「名詞之部」が第一章に編成されたため)。本稿では初版本の「第六回」に合わせて番号を (6) とする。
- 当研究会の正式名称は「首里言葉の集い」で設立は1998年である。当時沖縄県立芸術大学教授 (現名誉教授) の加治工真市先生が「滅び行く首里方言を記録、保存しておきたい」という目的で創設し、一般教育棟2階の一室で行っていた。仲原の指導教員であった加治工先生の退職に伴い、一端研究会は休会となった。2003年の再開以降は、仲原が事務局をつとめ、会場を沖縄県立芸術大学附属研究所へと移した。初期メンバーは中村春子氏、故比嘉恒明氏、新垣恒成氏らであり、現在は仲里政子氏、新垣恒成氏、大道好子氏、渡名喜勝代氏、山田美枝子氏、国吉朝政氏、知念ウシ氏、渡名喜浩子氏、林京子氏、仲原らが集い、毎週水曜日14時から研究会を開催している。
- ウドゥントゥンチのことばを話す人々のはあまり多くないが、中松 (1982) や比嘉 (1987) でインフォーマントになっている方々であり、『沖繩対話』の話者の一人とされる「護得久按司朝常氏」もこの系統の家柄である。
- この首里方言に関して、本永 (1983 : 554) は「内容は、ごく日常的な語句と会話文をとりあげて、共通語と方言 (首里の貴族語) の対訳を並記したものである」との見解を示している。
- 本稿の話者は、首里で生まれ育った仲里政子氏 (1923年生)、新垣恒成氏 (1932年生)、渡名喜勝代氏 (1937年)、山田美枝子氏 (1937年)、国吉朝政氏 (1940年生)、林京子氏 (1951年生)、石垣市生まれで幼い頃より家庭内では明治生まれの両親が話す首里方言を聞いて育った首里在住の大道好子氏 (1938年) である。

参考文献

- 沖縄県庁 編 (1975[1980]) 『沖縄対話〔復刻版〕』国書刊行会、東京
- 伊豆山敦子 [編] 『放送録音テープによる琉球・首里方言一部四郎博士遺品一』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、東京
- 内間直仁・野原三義 (2006) 『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』研究社、東京
- 国立国語研究所 [編] (1963) 『沖縄語辞典』大蔵省出版局、東京
- 糖業研究会出版部 [編] (1916) 『琉球語便覧』糖業研究会出版部、沖縄
- 仲原穰 (2014) 「沖縄那覇市首里方言」方言文法研究会 編『全国方言文法辞典資料集(2) 活用体系』(2009-2013 年度 科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究代表者: 日高水穂) 研究成果報告書、大阪、pp. 135-145
- 仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政 (2012) 「現代首里方言訳『沖縄対話』(1) —「第一章 四季の部」(春・夏)—」『沖縄芸術の科学』第24号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 15-31
- 仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政 (2013) 「現代首里方言訳『沖縄対話』(2) —「第一章 四季の部」(秋・冬)—」「第二章 学校の部」『沖縄芸術の科学』第25号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 113-154
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政 (2014) 「現代首里方言訳『沖縄対話』(3) —「第三章 農之部」『沖縄芸術の科学』第26号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 151-176
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子 (2015) 「現代首里方言訳『沖縄対話』(4) —「第四章 商之部」『沖縄芸術の科学』第27号 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 125-153
- 仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政・渡名喜勝代・山田美枝子・大道好子 (2016) 「現代首里方言訳『沖縄対話』(5) —「第五章 遊興之部」『沖縄芸術の科学』第28号 (波照間永吉教授退任記念号) 沖縄県立芸術大学附属研究所、沖縄、pp. 125-153
- 中松竹雄 (1982) 「IV 沖縄県那覇市首里」国立国語研究所 [編] 『方言談話資料(6) —鳥取・愛媛・宮崎・沖縄—』国立国語研究所、東京、pp. 247-349
- 野原三義 (1998[1977]) 「那覇方言の音韻」『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所、東京、pp. 713-730
- 西岡敏・仲原穰 [編]、伊狩典子・中島由美 [協力] (2006[2000]) 『沖縄語の入門 (CD付改訂版) —たのしいウチナーグチ』白水社、東京
- 比嘉成子 (1987) 「『資料紹介』首里方言自由会話『旧正月と大晦日の思い出』琉球方言研究クラブ30周年記念会 [編] 『琉球方言論叢』琉球方言論叢刊行委員会、沖縄、pp. 73-91
- 本永守靖 (1983) 『『沖縄対話』おきなわたいわ』『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社、沖縄、p. 554

付記

本論文の英文タイトルと英文要旨は、当会のメンバーである知念ウシ氏に修正とチェックをお願いした。快く引き受けてくださったことを衷心より感謝申し上げる。